

当院における医師から診療看護師へタスクシフトしたPICC挿入活動に関する報告

国島正義[†] 竹田明希子 岩崎泰昌*

第76回国立病院総合医学会
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol. 78 No. 2 (94-97) 2024

要旨

【背景】国立病院機構呉医療センター（当院）には診療看護師が2名在籍し、共に救急科に所属している。主な役割はICUを含む入院患者の診療や救急搬送患者の受け入れを行い、これらの活動に加えて、医師から看護師特定行為である末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）の挿入をタスクシフトし、診療看護師へ業務を集約化している。PICC挿入活動を開始した初年度は11診療科からの依頼であったが、活動が徐々に広まり、現在では約20診療科から依頼を請け負っている。また、PICC挿入件数も年々増加し、初年度は216件であったが2021年度では735件となった。これまで医師からタスクシフトしたPICC挿入活動の評価を行っていなかったため、医師から診療看護師へタスクシフトした活動に関する効果について評価を行った。【方法】2021年度に診療看護師がPICCを挿入した735件を対象とし、償還価格－納入価格＋手技料から算出される収益を採用しているPICCキット毎に計算した。次に、医師の業務時間が軽減した時間について検討するため、PICC挿入時間を1件40分と考えPICC挿入時の介助を含め医師2名で業務時間を計算した。また、診療看護師がタスクシフトによって負担している業務時間を検討するため、PICC挿入に慣れていることを考えPICC挿入時間を1件30分として計算した。【結果】呉医療センターで採用している3つのPICCキット毎に償還価格－納入価格＋手技料から算出された収益は合計3,985,350円であった。PICC挿入を医師が行った場合、医師の業務時間は980時間であった。診療看護師がタスクシフトによって負担している業務時間は735時間であった。【結語】医師から診療看護師へPICC挿入をタスクシフトした結果、収益の増加および医師の業務時間軽減に繋がった。しかし、PICC挿入件数が増加することで、診療看護師の業務負担増加に繋がるため、不必要なPICC挿入がなされないよう活動を行っていく必要がある。

キーワード タスクシフト、診療看護師、末梢挿入型中心静脈カテーテル

背景

2008年より日本で初めてNurse Practitioner (NP:

診療看護師)に関する教育が大分県立看護科学大学大学院で開始された。教育開始当初は法令規定などなかったが、さまざまな討議が行われ2015年より看

国立病院機構呉医療センター 看護部（救急科） *救急科 †診療看護師
著者連絡先：国島正義 国立病院機構呉医療センター 救急科 〒737-0023 広島県呉市青山町3-1
e-mail：kunishima.masayoshi.yb@mail.hosp.go.jp
(2022年12月21日受付 2023年4月14日受理)

Task Shift of PICC from Doctors to Nurse Practitioner in Our Hospital

Masayoshi Kunishima, Akiko Takeda and Yasumasa Iwasaki*

NHO Kure Medical Center, Department of Nursing, *Department of Emergency Medicine

(Received Dec. 21, 2022, Accepted Apr. 14, 2023)

Key Words : task shift, Nurse Practitioner (NP), Peripherally Inserted Central Catheters (PICC)